

# ほほえみ

第47号 2019年12月発行



独立行政法人 国立病院機構  
七尾病院

〒926-8531 石川県七尾市松百町八部3番地の1  
TEL (0767) 53-1890 (代)  
FAX (0767) 53-5771  
ホームページ <https://nanao.hosp.go.jp>



「剣遠望」橋本義則（七尾美術作家協会会員）

## 私達の信条

私達は、患者さんにいつも愛と思いやりの心で接します。  
私達は、国の担うべき医療を提供し、地域に親しまれる病院を目指します。  
私達は、質の高い医療を提供し続けていくために日々研鑽いたします。  
私達は、医療の進歩に貢献するために臨床研究を推進します。  
私達は、互いに協力し、働きがいのある明るい職場作りに努めます。

## 目次

長引く咳(慢性咳嗽)の診療	2
岬めぐり	3
第5回能登地区神経難病ネットワーク地域連携の会報告	4
第28回結核臨床研修会を開催して	5

# 長引く咳(慢性咳嗽)の診療

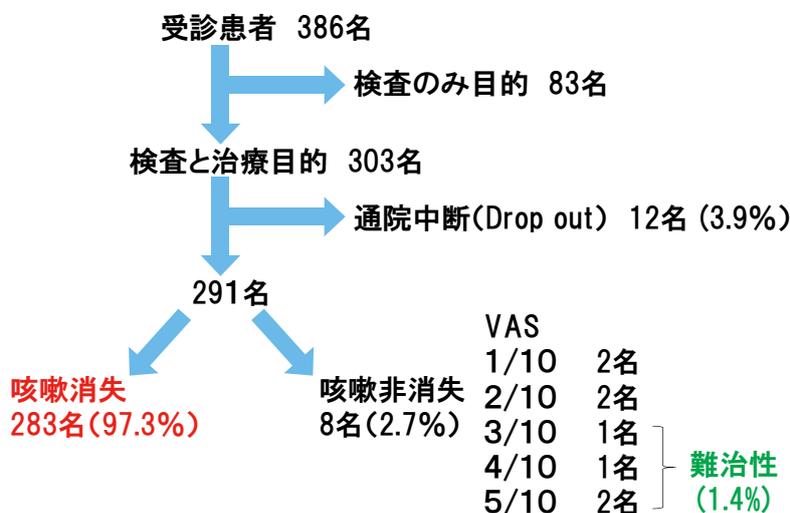
院長 藤村 政 樹

私は、2012年4月に七尾病院に院長として赴任するまで、金沢大学呼吸器内科で長引く咳(慢性咳嗽)の研究をしてきました。慢性咳嗽の原因として重要な疾患は、咳喘息、アトピー咳嗽、副鼻腔気管支症候群、咳優位型喘息、胃食道逆流症、アレルギー性気管支肺真菌症ですが、とくに咳喘息とアトピー咳嗽の病態を解明して、その病態を検査によって検証する方法(病態的診断法)を確立しました。七尾病院では2013年4月から、その病態的診断法を取り入れ、慢性咳嗽の診療を行っています。今回、その診療実績を第73回国立病院総合医学会(2019年11月8日(金)・9日(土) 名古屋国際会議場)に於いて発表を行い、ベスト口演賞を受賞しました。以下にその内容を簡略に紹介いたします。

2013年9月1日から2018年8月31日の5年間に慢性咳嗽を主訴に七尾病院を受診した患者さんは386名でした。その内83名は遠方からの短期入院で検査をして診断し、治療は地元で行ったため、正確な治療効果は把握できません。今回はこの83名を除いた診断と治療を目的とした303名の治療成績をまとめました。十分な治療を行う前に受診を中断した患者さんが12名(3.9%)いました。残りの291名では、咳が消失した患者さんは283名(97.3%)でした。咳が消失しなかった患者さんは8名(2.7%)で、4名が2割以下に軽快しましたが、4名は3割以上の症状が残り、難治性でした。この成績は、慢性咳嗽は診断が難しいだけでなく、治療も容易ではないことを示しています。

## 慢性咳嗽の病態的診断の治療成績

(2013/9/1~2018/8/31 七尾病院)



# 岬めぐり

内科医師 堂 下 隆

当院では政策医療の一環として結核治療を行っており、結核病棟を有しています。結核自体は年々徐々に減少してきていますが、最近では外国人の比率が上昇してきました。日本人の場合は高齢者が多いのですが、外国人は留学生や職業研修生が主で若い年代に多いのが現状です。20歳代は7割が外国人です。罹患率は大都市圏で高く、全体では西高東低で西日本に高くなっています。結核に反して年々増加しているが非結核性抗酸菌症、なかでも大多数を占めるのがMAC症です。この疾患は他人への感染性はありません。中高年の女性に多く、咳、全身倦怠感、息切れや血痰が出るがあります。病態はその多くがゆっくり進行します。この菌は塗抹検査（顕微鏡検査）では外見上、結核菌と見分けがつかず。鑑別には遺伝子学的検査（PCR法など）が必要です。MAC症の病原菌は西日本ではM.intracellulare（イントラセルラー）、東日本ではM.avium（アビウム）が多い検査結果となっています。以上の点からも日本は北東から南西に長い広大な国家なのです。

明治時代、惑星X（冥王星）の存在を予言し、また火星に運河の存在を唱えたことで知られる天文学者パーシヴァル・ローエルは4度来日しています。彼は日本地図を眺め、西方の海岸に奇妙な形を見せて突き出しているひとつの半島（能登半島）に魅せつけられ、気まぐれから当時としては壮大な旅に出ました。東京を出発し碓井峠、善光寺、能生、親不知子不知、越中（富山）平野と続き、氷見から荒山峠を越えて七尾に至り、さらに北上して穴水に到達しました。これより穴水町では「星空のまち」として売り出しています。著書「NOTO－能登・人に知られぬ日本の辺境」では旅の経過が写真付きでおもしろく記述されています。穴水で折り返し、さらに旅を続け天竜川河口に至り紀行文は終了しています。

山あり海ありの日本で地図上、目を引くのが半島またその先端の岬です。最果てのイメージもあり旅情を感じさせます。

晴れた日にはサハリンが遠望できる日本最北端の宗谷岬、青函トンネルの舞台であり階段国道のある津軽半島の竜飛崎、男鹿半島は北緯40度線が横切る入道崎、能登半島は地球の丸さを体感できる禄剛崎、福井県はスイセンで有名な越前岬、丹後半島の経ヶ岬、島根半島東端の地蔵崎、西端の日御碕、長崎半島の野母崎、薩摩半島は開聞岳の眺めがすばらしい長崎鼻、沖縄本島南端に近い喜屋武岬、宮崎県は野生馬が草を食む都井岬、高知県は第1第2と2つの台風の名前がついている室戸岬、志摩半島の大正崎、渥美半島は恋路ヶ浜というきれいな砂浜のある伊良湖岬、気象関連でよく出てくる静岡県の御前崎、伊豆半島の石廊崎、元旦に日本本土で最も早く初日の出が見られる千葉県の大仏崎、そして森進一の襟裳岬。

目的地だけでなく、そこに至る道中でも車窓から目を離せません。とくに電車（列車）、路線バスでの移動はその気分を高揚させてくれます。



御前崎灯台

# 第5回能登地区神経筋難病ネットワーク 地域連携の会報告

医療社会事業専門員 上田 竜也

9月14日(土)能登空港にて第5回能登地区神経筋難病ネットワーク地域連携の会を開催しました。当会は医師、歯科医師、看護師、介護士、ヘルパー、リハビリスタッフ、薬剤師、ケアマネジャー、ソーシャルワーカー等を対象として顔のみえる地域連携を目指すことを目的に、2016年より恵寿総合病院、公立能登総合病院、七尾病院それぞれの脳神経内科が主体となり研修会を実施しています。

一般演題1では、恵寿総合病院ケアマネステーション恵寿 高塚るみ子主任介護支援専門員より「パーキンソン病の夫を支えた妻と共に…」と題して、ケアマネジャーとして10年以上関わったパーキンソン病患者さんへの支援やその家族への介入などについて発表がありました。

一般演題2では、公立能登総合病院訪問看護ステーション 高森真弓看護師より「在宅で生活するALS患者と家族を支える取組み」と題して、在宅療養している神経筋難病患者さんに対する訪問看護師としての役割について、多職種との情報共有や橋渡しの重要性について発表がありました。

一般演題3では、七尾病院 近藤洋平医療社会事業専門員より「パーキンソン患者の在宅支援—時々自宅、時々レスパイト入院—」と題して、事例を通じて退院支援の3段階や地域包括ケアシステムにおける重要な視点などについて発表がありました。

レクチャーでは、公立能登総合病院 町谷知彦脳神経内科部長より「能登病院でのパーキンソン治療—私の頭の中の治療設計—」と題して、パーキンソン病に関する基礎知識から病状進行の経過、進行に応じてどのように処方の変更されていくか等を詳しくご説明いただきました。

以前から日頃の悩みを相談できる時間を設けてほしいとの意見が聞かれていたため、今回は参加者より事前にいただいた質問に関して多職種でディスカッションを行うグループワークの時間を設けました。研修会終了後のアンケートでは「グループワークで多職種の意見を聞くことができよかった」「グループワークの時間をもっと長くしてほしい」など同様の意見を多数いただき好評だったと感じております。

当会は今後も年1回研修会を開催いたします。今後も神経筋難病の方を支援する皆様のお役に立てる情報を発信させていただきます。



## 第28回結核臨床研修会を開催して

医療社会事業専門員 坂本 千夏子

令和元年11月3日(日)、国立病院機構 金沢医療センター 管理棟3階講堂にて、結核医療にかかる地域の医療機関等相互の連携強化を図り、結核医療の向上に努めることを目的とする研修会が開催されました。当日は、石川県金沢市地区の保険医療機関の医師・看護師等の医療従事者を中心に参加して頂きました。

第1演題は、石川県金沢市保健所主査 北岡政美先生による「金沢市保健所管内の結核患者の発生状況について」でした。結核登録状況では、平成30年の新規登録患者数は石川県110人に対して金沢市は38人と県内の35%を占めていました。潜在性結核感染症の方は23人であり、届出は合わせて61人でした。金沢市は県内では高齢化率が低く、若い方が若干多い分、結核発生率も下がっています。金沢市内の在留外国人数は県内の36%程であり、特別に多い割合で外国人が集中しているわけではありません。平成30年の新登録結核患者の年代と出生地をみると、38人中60歳代以上の29名は全て日本出生で全体の76%を占めていますが、50歳代以下は外国出生が多くを占め、内訳としては、中国・ベトナム・フィリピン・インドネシア・カンボジアでした。結核発生の多い主要6か国とほぼ一致し、全国の傾向と変わりありませんでした。65歳以上では、市の特定検診で胸部レントゲン検査を受けられることから、各医療機関でも検診を進めることで結核の早期発見につながることを、受診や診断の遅れに注意することが大切だとわかりました。最後に、「医師による結核の発生届はまん延防止の第一歩です」と説明があり、届出を行って頂くことで保健所は、①確実に治療するために、患者さんが治療完了まで服薬確認等のフォローを行うこと、②安心して治療をするために、患者さんが入院及び通院医療費の公費負担を受けるための手続を行うこと、③地域の方を守るために患者さんと接触のあった方々の健康診断を行い、結核の更なるまん延を予防すること、以上3つのことに重点を置いていると理解できました。

第2演題は、当院の堂下隆内科医師による「結核診断のポイントについて」でした。

第3演題は、当院の土島秀次呼吸器科医長による「結核症例の実際」～画像を中心に～でした。

第4演題は、当院の安井正英特命副院長による「結核の喀痰および採血検査について」でした。

第5演題は、当院の梅木里美院内認定結核看護看護師による「結核発症時の施設内対応と当院の結核看護について」でした。

第6演題は、当院の中川かつ枝感染管理認定看護師による「施設内での結核患者発生時の接触者調査について」と「N95マスクフィット演習」の実習でした。

次年度は、研修会開催周知の方法を工夫して、医療従事者のみならず、介護・障害福祉施設職員等にもご参加頂けるように広報活動をしていきたいと思っております。皆様、是非ご参加ください。



# 職員募集!

## 児童指導員(パート)

## 作業療法士・言語聴覚士

### を募集しています

問い合わせ先

独立行政法人国立病院機構七尾病院  
(0767) 53-1890 (内線1104)

ご希望の方は、お気軽にご連絡ください。

## 外来診療担当医表

外来受付時間 8:30~15:00

診療時間 8:30~17:00

区分・時間	月	火	水	木	金	
呼吸器内科	午前		藤村 (初診のみ) 安井	藤村 (初診のみ) 安井	藤村 安井 土島	藤村 (初診のみ) 安井
	午後	藤村	藤村			
脳神経内科 *オンコール	午前	横地	横地	横地	森永	森永
内科	午前	横地	橋井	陳	森永	堂下
消化器内科	午前	陳 (初診のみ)		陳		陳 (初診のみ)
小児科	午前	泉	泉	泉*1	泉*1 押切	押切
	午後	押切	押切	泉*1	泉*1 押切	
内科 (皮膚)	10:00 11:30	山口	藤村 <sup>啓</sup> 10:30~15:00	藤村 <sup>啓</sup>	石倉	多賀
ペインクリニック内科	午前	高澤	高澤	松島	高澤	高澤
	午後			松島(第2) 高澤		松島 (第4)
循環器内科	午前					佐伯

泉\*1: 小児神経・発達障害

- ※ 初めて外来診察を希望される方は、お手数でも事前に当院外来受付まで連絡願います。TEL 0767-53-1890(代表)
- ※ 小児期の予防接種はじめ各種予防接種を行っております。
- ※ 呼吸器科は予約診療のみとなっています。診察ご希望の方は事前にお問い合わせ下さい。
- ※ 小児科の小児神経外来をご希望の方は事前のお問い合わせをお願いします。

## 病院概要

■医療法病床 239床

■標榜診療科

内科、脳神経内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、小児科、ペインクリニック内科、リハビリテーション科



## 案内図



JR七尾線「七尾駅」下車  
→北鉄バス【和倉温泉行】にて  
(3.7km./約15分)七尾病院前下車  
→徒歩5分(500m.)

※平日の午前中は坂下まで  
病院バスの送迎あり



## 編集後記

近藤です。グッと縮こまるような寒い時期になりましたね。こんな時期は家にこもりがちになりますが、私の外出を後押ししてくれるのがスノーボードです。広大な自然を眺めながら駆け抜けるあの感覚がたまらず好きです。それと、スキー場で食べるカレー(なんであんなに美味しいんでしょう。笑)や帰りの温泉も楽しみの一つです。皆さんの外出意欲を高めるものはなんでしょうか?また教えて下さい!

医療社会事業専門員 近藤 洋平